財務指標の例⑦

当座比率

2023 年度の当座比率（全産業・全規模）は 91.5%

※製造業（全規模）93.7%、非製造業（全規模）90.6%

（１）財務指標の説明

当座比率とは、当座資産の流動負債に対する割合を言い、企業の短期的な債務の支払能力をより厳密に見る尺度であり、流動比率の補助的な役割があります。

流動資産のうち、特に早期に現金化を図ることができる、現金預金、受取手形、売掛金、有価証券の４項目を合わせて当座資産と言い、当座比率が高い場合は、短期的な債務の返済能力があると言えます。

$$\text{当座比率}(\%) = \frac{\text{当座資産}^{*}}{\text{流動負債}} \times 100$$

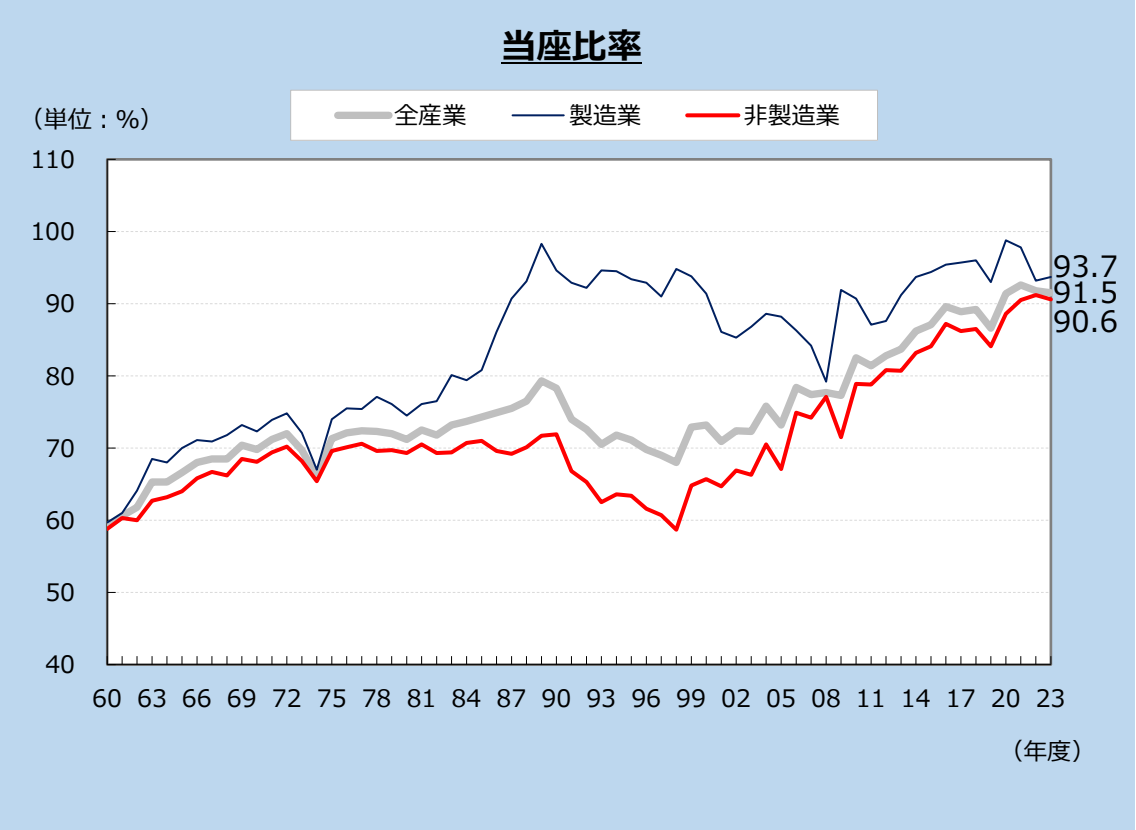
（＊ 当座資産＝現金預金＋受取手形＋売掛金＋有価証券）

貸借対照表

資産の部	負債の部
Ⅰ　流動資産	Ⅰ　**流動負債**
現金預金	Ⅱ　固定負債
受取手形	
売掛金	**純資産の部**
有価証券	Ⅰ　株主資本
Ⅱ　固定資産	Ⅱ　評価・換算差額等
Ⅲ　繰延資産	Ⅲ　新株予約権
資産合計	総資本（負債・純資産合計）

損益計算書

Ⅰ	売上高
Ⅱ	売上原価
	売上総利益
Ⅲ	販管費
	営業利益
Ⅳ	営業外損益
	経常利益
Ⅴ	特別損益
	税引前当期純利益
Ⅵ	法人税等
	当期純利益

（２）グラフで見る最近の動き

２０２３年度は、製造業では当座資産の対前年度増加率が流動負債の増加率を上回ったことから当座比率は上昇している一方、非製造業では当座資産の対前年度増加率が流動負債の増加率を下回ったことから当座比率は低下しており、全産業で見た当座比率は前年度比で低下しています。